

連続講演会

「自分らしい人生の最終章とは？」

～在宅という選択のこれから～

国は高齢者が重度な要介護状態になっても、住み慣れた町で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアを推進しています。「在宅という選択」の可能性と課題を、国、地域、個人のそれぞれの立場から改めて考えます。(1講座だけの受講も可能です)

時間

13:00～16:00
(全講座共通)

ところ

浜離宮朝日ホール 小ホール
(中央区築地5-3-2)

定員

400人

【第1回】～今なぜ在宅なのか～ 10月12日(日)

◆「国の施策と私たちの生活」

講師＝太田秀樹・全国在宅療養支援診療所連絡会事務局長

「在宅」へ舵を切ったといわれる政府の動きや、検討、実施されているさまざまな施策について、その背景や期待について解説していただきます。

◆「国の在宅支援に私たちはどう向き合っていけばよいのか」

聞き手／佐藤陽・朝日新聞記者

国の在宅支援は、私たちにどのような終末期の過ごし方を可能にしてくれるのか。またその実現のための課題について、会場からの質問を交えながらうかがいます。



太田秀樹さん

【第2回】～これから地域で何をすべきか～ 11月2日(日)

◆「地域を耕す」～暮らしの保健室がめざすこと～

講師＝秋山正子・白十字訪問看護ステーション統括所長

住み慣れた地域で暮らすことができるよう、健康や医療について気軽に話せる地域の身近な相談場所「暮らしの保健室」について地域育成の観点から、現状と今後の展開について語っていただきます。

◆「地域で看取る」～ホームホスピスの役割～

講師＝市原美穂・ホームホスピス宮崎理事長

自宅に近い環境で最期まで暮らすことができる共同住宅ホームホスピス。その設立の背景とこれからの課題についてお話しいたします。

◆対談「これから地域でなすべきこと」

聞き手／岡本峰子・元朝日新聞論説委員

誰もが住み慣れた地域で自分の思うような最終章を迎えるために地域ができること、地域ですべきことについて、二人の講師にうかがいます。



秋山正子さん



市原美穂さん

【第3回】～高齢期の最終章を自分らしく～ 11月29日(土)

◆基調講演「人生の最終章を幸せに生きる」

クサカベ ヨウ

講師＝久坂部羊・医師・作家

超高齢社会を迎えるなか、私たち個人はどのように人生の最終章を生きていけばよいのか。幸せな最期を迎えるために自分自身でできること、すべきことについて、ご家族の看取りを経験された医師で作家の久坂部さんに語っていただきます。

◆対談「自分らしい最期を迎えるために」

聞き手／石井暖子・朝日新聞文化くらし報道部次長

納得のできる最期を迎えるためには、どのように準備してゆけばよいのか。会場からの質問を交えながら、久坂部さんにたずねます。



久坂部羊さん

受講料

各回1人1,000円(当日会場でお支払いください)

お申込み方法

受講希望日、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、職業、電話番号、ファクス番号を明記し、はがきかファクス、Eメールでお申し込みください。

〒104-8011(住所不要)朝日新聞厚生文化事業団「在宅」係

電話03-5540-7446 ファクス03-5565-1643

E-mail zaitaku-t@asahi-welfare.or.jp

※ホームページ(<http://www.asahi-welfare.or.jp/>)からも申し込めます。

※定員400名。先着順となります。定員になり次第締め切ります。

※聴講券を送付しますので、当日ご持参ください。

お問い合わせ

朝日新聞厚生文化事業団「在宅」係 電話03-5540-7446

会場＝浜離宮朝日ホール 中央区築地5-3-2 朝日新聞東京本社・新館2階
(小ホール) 電話03-5541-8710 ファクス03-5541-8705
<http://www.asahi-hall.jp/>



都営大江戸線「築地市場駅」A2出口より徒歩約3分

東京メトロ日比谷線「築地駅」(1、2番出口)より徒歩約8分

東京メトロ日比谷線／都営浅草線「東銀座駅」(6番出口)より徒歩約8分

JR「新橋駅」(汐留口)／東京メトロ銀座線「新橋駅」(1、2番出口)／

都営浅草線「新橋駅」(改札口)より徒歩約15分